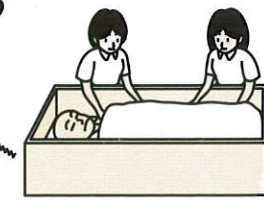


ご葬儀の流れ



1. 臨終

末期の水

主な親戚に連絡

ご遺体の移送

ご遺体の安置 枕飾り

2. 葬儀の打ち合わせ

枕経

6. 死亡の連絡(友人・知人・町会)

※弊社にご連絡ください

死亡診断書の受取

3. 準備と手配

4. 寺院への連絡

5. 諸手続き事項

納棺

● 供花・供物等
● 料理・式服の券

◆ご遺体の安置・枕飾り・神棚封じ・お仏壇・忌中紙等は弊社担当者がお世話致します。

◆ご納棺・祭壇・式場の飾り付け等は弊社担当者がお手伝い・施行致します。

青文字黄色部分は喪主様側でしていただく事を説明

黒文字部分は弊社(葬儀会社側)でする事を説明

1 臨終直後

■まず弊社にご連絡ください

(24時間、いつでも結構です。)

■末期の水

●故人に対し現世での最期の水を飲ましてあげる、又、決別の意味を込めて唇を浸します。
(当社で用意してある〈末期の水用〉備品を使用して故人の唇をぬらすようにします。
病院からご自宅又はホールに安置してから行うことが多いようです。)

■家族・主な親族に連絡します

(肉親や特別な関係の方にはとりあえずお知らせします。)

■病院より死亡診断書を受け取ります

(以後の手続きに必要です。必ず忘れずに。)
(ご自宅でなくなった場合は、医師又は警察による死亡の確認が必要です。)

■ご遺体の搬送

(病院での処理後、ご遺体をご自宅、又は式場までお送り致します。)

2 葬儀の打ち合わせ

■葬儀内容の決定

- 喪主を決めます。
- 通夜・葬儀の日時・式場を決定。
- 葬儀の規模内容と予算を決めます。
- 世話役・主な係を決めます。
- 遺影写真の決定。
- 宗旨・宗派・宗教者・家紋等の確認
- 生花・花輪・柶(関西のみ)・乾物・灯籠等供物の注文
- 貸衣装の注文
- 通夜ぶるまいの料理・精進落としの料理・お手伝いの方の弁当や引き出物等の注文

3 準備と手配 弊社が素早く手配いたします。

- ①遺影写真の引き伸ばし
- ②霊柩車・火葬場の手配
- ③会葬礼状・ご供養品の準備と手配
- ④お通夜ご供養品の準備
- ⑤お棺・葬具一式
- ⑥式場の設営
- ⑦受付用具・案内掲示
- ⑧スタッフの手配
- ⑨バス・ハイヤーの手配
- ⑩新聞広告・その他

⑪生花・花輪・柶(関西のみ)・乾物・灯籠等供物の手配

⑫貸衣装の手配

⑬通夜ぶるまいの料理・精進落としの料理・お手伝いの方の弁当や引き出物等の手配

⑭神棚封じを致します

(ご自宅の神棚の戸を閉め白紙で神棚封じを致します。本来は、絵画や額・置物などの装飾品は取り外し、表には忌中紙を貼ります。)

(随時弊社でサポート致します。)

4 寺院への連絡

■枕経のお願い

(宗旨・宗派・所属寺院の確認をしてからご依頼をします。)

(ご寺院様に対するお布施等が気になる場合はお気軽にご相談下さい。)

■各種事項の打合せ

●僧侶の都合に合わせて、通夜・葬儀・火葬場での勤め・初七日法要などのスケジュールを相談します。

●戒名・法名のお願いをします。

●通夜・葬儀の僧侶の人数・送迎・食事などを打合せします。

(随時弊社でサポート致します。)

5 諸手続き事項

■死亡届に必要事項を記載します。

■死亡届の手続きをします。

■(埋)火葬許可証を受け取ります。

■火葬場の手続きをします。

6 死亡の連絡(友人・知人・町会)

(当社と通夜・葬儀の日時を決めてから連絡した方が1回で済みます。)

■親戚への連絡

(誰か代表の方に連絡していただきます。)

■友人や関係先への連絡

(誰か代表の方に連絡していただきます。)

■町内への連絡

(町内会長または組長(班長)に連絡します。)

●通夜・葬儀の日時がきまったら、なるべく早く連絡しましょう。

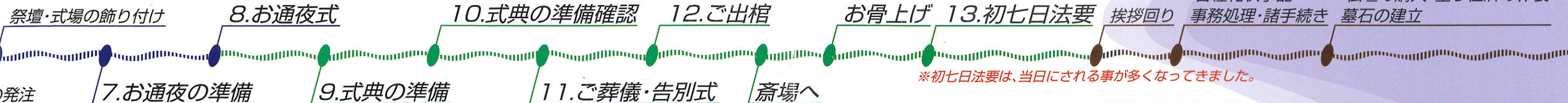
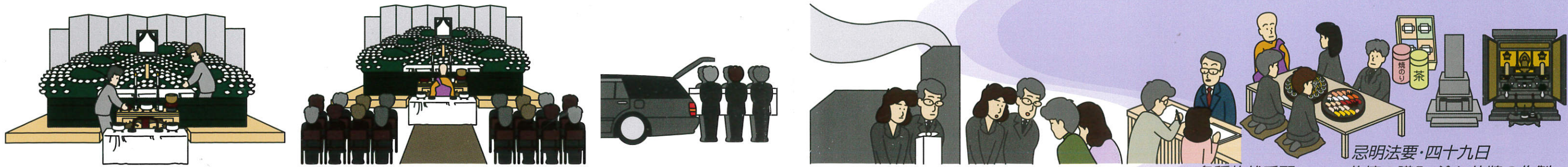
●故人や遺族の会社関係には、社内で中心となって伝達してもらえる上司などに連絡します。

●向こう三軒両隣は、直接あいさつに出向きます。

●町内への連絡は、町内会を通じておこなうようにします。

(重複して連絡されると大変失礼になりますので、よく確認の上、連絡する様にいたしましょう。)

故人の希望する葬儀形態がある場合はできるだけ故人の希望を尊重しましょう。
(葬儀施行内容希望書の保管状況により、その時開封できない場合もありますのでご注意ください。遺言書等に記載されている場合は公正証書遺言書以外は勝手に開封できません)



の発注
※注

◆お通夜の準備等はすべて弊社で施行させていただきます。

7 お通夜の準備

- ご寺院用の座布団、お茶・お茶菓子・控室等を準備します。
- 受付をする人とご返礼品をお渡しする人をお決めしておきます。
- お供養品と御礼状の用意をします。
- 道案内(指差し)は適切な箇所に設置いたします。
- 駐車場を用意いたします。
- お手伝いスタッフの手配を致します。
- 座布団・お茶・お茶菓子・通夜料理・お酒等、通夜接待の準備を致します。
- 御遺影写真のご用意を致します。
- 遠方からのご親族の宿泊のご用意は？当社でもお手伝いできます。
- 数珠・黒ネクタイ・靴下・貸衣装用の肌じゅばん・足袋・お布施の袋などのご用意は？当社でも手配できます。
- お布施の準備を致します。

8 お通夜式

- お勤めの終了後、頃合いを見て喪主又は親族代表が挨拶を行います。(挨拶文例参考集は当社でご用意いたしております。)
- お通夜が一段落したら、焼香順位・供車の乗車配分など翌日の式典の準備を親族の主だった方々と相談しておきましょう。

9・10 式典の準備確認

- 当社にて全て執り行います。
- 祭壇の組み立て
 - 焼香台の準備
 - 生花の飾り付け
 - ご寺院様椅子の準備
 - ご供花・ご供物の準備
 - お受付の準備

11 ご葬儀・告別式

- ご葬儀告別式に関して、ご遺族でしていただく事は弊社係員が適切にアドバイスさせていただきます。
- ご葬儀式典の進行等は全て弊社係員がさせていただきます。

12 ご出棺

- 霊柩車・火葬場での準備は弊社でお手配致します。

13 初七日法要

※最近では当日に初七日法要を執り行う事が多くなりました。

葬儀後のスケジュール

1 挨拶回り(式後2~3日の間に)

- 隣近所への挨拶
- お世話になった方への挨拶
- 寺院への挨拶
- 会社や目上の方への挨拶

2 初七日の法要(当日済ませてある場合は必要ありません。)

- 寺院との打ち合わせをします。
- 日時、出席者を決めます。
- 料理、引出物の手配をします。(弊社にお申し付け下さい。)

3 お礼状(式後3週間以内にできるだけ早く)

- 弔電、供花、供物をいただいた方には御礼状を出した方がよいでしょう。
- 香典を書留等でいただいた方にはお礼状とご返礼品を送られた方がよいでしょう。
- 町内会などの掲示板に挨拶状を貼ります。(弊社にお申し付け下さい。)

4 故人の諸整理

- 身分証明書、保険証等の返却をします。
- 給与精算、退職金、社会保険、厚生年金等の確認をします。

5 相続の協議内容

- 遺言の有無を確認します。
- 遺産分割協議書 ●法定相続 ●相続の破棄
- 相続税の申告と納付を10ヶ月以内に行います。
- 故人の確定申告は相続から4ヶ月以内に行います。

6 香典返し(亡くなった日より四十九日前後迄)

- 香典帳の整理をします。
- お返しの品物は香典額の1/2~1/3が一般的です。
- 挨拶状は品物につけるか、又は郵送します。(最近では当日返しをされる地域も増えてきました。)

※忌明に白木の位牌から塗り位牌か繰り出し位牌に替えます。

- 仏壇がない場合や買い替えの場合は忌明までに行いましょう。
- 施主は下座に座り挨拶をします。
- お墓参りをする場合は事前にお墓の掃除をしておきます。
- 埋葬の時は、埋葬許可証が必要です。
- 浄土真宗では本山の御廟へ納骨することがあります。(弊社にお申し付け下さい)

7 満中陰法要

- 日時・場所を僧侶、親戚と相談します。(命日より後には行いません)
- 日時が決定したら出席者に案内をします。
- 料理、引出物の手配をします。
- ※忌明法要は故人にとり大変重要なものとされています。

8 葬儀後の諸手続き

- 国民健康保険加入者は市民課に葬祭費を申請します。
- 社会保険、労災保険加入者は埋葬料を勤務先にお問い合わせください。
- 国民年金の手続きにより、遺族基礎年金、寡婦年金、死亡一時金のいずれかが支給されます。
- 葬儀費用の領収書は保管しておきましょう。

9 遺産整理と形見分け

- 仕事関係の書類は5年間の保管が必要です。
- 形見分けは原則として親族で分け、目上の人には分けません。
- 帯、着物、背広などは仕立て直し使うことができます。

10 初盆、一周忌、年忌法要

- 初盆祭壇、盆提灯、迎提灯を準備します。
- 寺院と日時の打ち合わせをします。
- 年忌法要は、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌、三十七回忌、五十回忌…と続きます。
- なくなった月日の翌年の同じ月日に一周忌を行い、その翌年(満2年目)に三回忌と数えます。(弊社にお申し付け下さい)

ごあいさつ

“生者必滅・会者定離”と昔から使い古されたこの世のきびしい別れの言葉の通り、だれもがこの真理を避けて通ることはできません。

この悲しい出来事の為に私共の役割があり、

人として、人生の最後を送る儀式が葬儀式だと想います。

その儀式にふさわしく、心よりそこに存在する皆様の心にふれる形の物を残して行きたい…。

私共は此の意義深い仕事を真心込めてご奉仕させていただくことが

社会の報恩になる事と信じ日々努めさせていただいております。

お葬式料金につきましても皆さまのご予算に合わせ、

その中で私どものベストを尽くしていきたいと考えております。

只、お葬式が発生した場合、短時間で色々なことを決定しなければならない状況となり、思い違い、勘違い等が生じやすくなります。

出来るだけ事前にご相談していただくことをお勧めいたします。

又、私どもに対するご意見・ご要望等がありましたら

是非ともご教示いただけますようお願い申し上げます。

その一つ一つを私どもの知識として社会へのお役にたてさせていただきますことをお誓い申し上げます。

今後とも私共一同、心を合わせ努力をしていきたく思っておりますので、

ご指名・ご依頼のこと、どうかよろしくようお願い申し上げます。



現在のお葬式事情

現代の社会環境として核家族化が進み、人々のお付き合いの範囲も小さくなり、又、長寿化する事により、病院・養老院での生活が長く、社会活動がほとんど無く交際している人も少ない状態の中、お亡くなりになった場合、ご参集される方は非常に限定された方々となり少人数のお葬式が多くなってきております。

わたしどもでは、この様なお葬式に対応すべくお葬式会館もそれに合わせた少人数型のホールをご用意いたしております。

又、故人の意思を尊重、あるいは喪主様の意向を反映させるお葬式も増えてきております。



いろいろなお葬式の形

現在日本には、様々なお葬式の形があります。それらの意味・分類がはっきりしないまま、大雑把に小規模葬の事を家族葬と呼ばれている節も見受けられます。先にも述べましたように現代社会構造を背景に小規模葬が増えて来た事は事実であります。そのような葬儀を依頼するユーザー様におかれましてもその意味をはっきり理解した上でお葬式という意味をお考え下さいますよう、お願い申し上げます。

■直送(火葬) 直送とはダイレクト・クリメーション(直接火葬)の略語です。一般的な葬儀・告別式はせず、直接火葬する事です。

■密葬 言葉通り密かに内々で行う葬儀で、社葬などの本葬に対して死亡直後に行う先行葬儀であり、後日正式な葬儀を執り行う事を前提としたお葬儀を言います。

■家族葬 故人の近親者や本当に親しかった友人達だけで行う葬儀で社会的なしがらみに捕らわれず、故人の個性を尊重したり、故人又は、喪主の意向を反映した個性的なお葬式にする事ができます。費用もその内容により異なるので必ずしも低料金のお葬式と言う訳ではありません。

■一般葬 今迄の普通のお葬式スタイルで、身内・友人だけではなく、いろいろな関係者を参列者として招く葬儀スタイルで、宗教者を呼び葬儀・告別式を施行、そして前日には、通夜式等を執り行う儀式を言います。関係、しがらみの多い地方の市町村では一般的です。

■社葬 社葬とは企業の発展に尽力した創業者や役員、業務遂行中に亡くなった社員の功績を讃えるために、企業が遺族と共に追悼する儀式の事を言います。